

# めだかの学校だより

平成30年8月1日  
第101号  
学舎：周智郡森町一宮  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL: 0539-62-6691

## 校長訓話

第一〇一回 校長 草地博昭

「次の世代に残していきたいもの」

「なせばなる、なさねばならぬ、なにごとく」

多くの方が一度は聞いたことがある言葉だと思いますが、誰がどんな環境の中で、この言葉を使い、残したということとはあまり知られていないのではないかと思います。

この言葉を言ったのは「上杉鷹山」という江戸時代中期の米沢藩主、今の山形県米沢地方を治め、藩の困窮を立て直した名君として、今でも米沢市民に愛され、そして学び継がれている人物です。アメリカ第35代大統領ケネディが、「尊敬する日本人は？」とい

うインタビューに対し、取り挙げたことでも有名になりました。

私は仕事柄、あちこちの地域に伺います。そこで学ぶのは最新の政策ですが、駅の構内、近くの公園を歩くだけでも伝わってくる、街や市民の雰囲気

を学ぶことも大切にしています。その中でも魅力が高いとか、文化度が高いなど感じる街に共通しているのは、冒頭の「なせば成る」ではありませんが、「温故知新」、地域から輩出した偉人や言葉を大切にし、子どもたちの教育や生涯教育にその精神が根付いている街です。例えば福井市は橋本佐内、鹿児島「郷中教育」などにその雰囲気を感じました。翻って私たちの住む街はどうでしょうか。

「めだかの学校」の次の時代への新しい一歩である、一〇一回の校長に任命いただきました。私はここに入学し、一メダカとして在学し続けていきますが、私自身、この街の「次の時代に残したいもの」は、まさに「めだか生」の皆さんの存在であり、生涯学び続ける姿勢と精神、ここに「めだか」の可能性を大いにかんじています。「継続」が文化になります。後世に残る「学舎」として私たち、楽しみながら学び続けたいものです(〃)



### 開校一〇〇回記念

カラー別刷4頁特別号

## めだかの学校伝言板

第101回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／草地博昭

教頭／喜瀬川はつ枝

用務員／永野貴嗣

給食係／大久保陽・村木謙弍・大谷香代子・今村純子  
山中幸子・尾上美智子・中村やす代・田村進治  
喜瀬川はつ枝・池田タキ江・渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成30年9月7日(金)6:20PMより

受付／大場敬子・大橋町代・大杉昌弘・榎原幸雄(後見人)

26期通年テーマ：『今を感じつつ、新たな年は「ハヤブサ号」のように…』

今回のテーマ：<心に欲するところに従って矩(のり)を踰(こ)えず、う～ん難しい>

<時間割>

— 26期 期初 特別授業 1時限 50分 —

●1時間目 体育?それとも生涯学習?

川島安一 先生(磐田市)

「古希爺 沙漠を走る」

●給食の時間～マツタケご膳?～

9:30 開校

# めだかの動き

## 泳ぎ回るめだかたち

### ■「かがり火」と「めだかの学校」

『かがり火』は、「めだかの学校」よりもよっとだけ古く、創刊31年目になる。過疎化や高齢化、人口減少で悩む地域取材してきた。ざっと計算しても訪ねた地域は1500カ所、取材した人は2000人近くになるだろう。日本はなぜこういういびつな社会になってしまったのか、私なりに得た一つの結論がある。戦後、日本は敗戦から立ち直り、生産力を回復させ、先進国に追いつくために地方の労働力を都市に集中させようとした。農村は遅れていて発展性のない地域だと直接間接にプロパガンダを行って、田舎を捨て、都市に住むことを慫慂した。今じゃ考えられないことだが、田舎では病気になることも病院に連れて行ってもらえず祈禱師で直そうとしていると教科書に載っていたほどである。都市への憧れを掻き立てるために教育、マスコミ、映画、歌謡曲、漫画、あらゆるツールが総動員された。田舎者は教養のない、がさつな人間の代名詞となった。

近年、都市と地方の格差に愕然とした政府は、地方再生や地域づくり協力隊などいろいろな政策を講じているが、焼石に水の感がある。根本的な原因についての考察が欠けているからだ。つまり地域への敬意がないところに発展性も永続性も生まれないことに気が付いていない。

「めだかの学校」25周年、なぜかくも長く続いたか。榊原幸雄事務局長の努力もさることながら、集う人たち同士に敬意が存在しているからである。家柄や財産、学歴などはさまざまであろうが、肩書で差別

したり色眼鏡でみるような人はいない。相手の仕事や生き方をリスペクトしている。一部のインテリや資産家が上座に座る団体では決して続かなかつただろう。

それにもう一つ、他人が話している時は私語を慎むというルールも大きい。人が話している時、隣の人と話をしようものなら「コラあ！」そこで喋っているのは誰だ！と叱責が飛んでくる会は珍しい。なごやかな談笑と他人のスピーチに耳を傾ける切り替えが、自然に行われる会は国民栄誉賞ものだと思っている。

(菅原欽一メダカ)

### ■第16回全国まちづくり交流会 in 熊本玉名

2018年7月27日(金)～29日(日)の3日間、熊本県玉名市で「第16回全国まちづくり交流会 in 玉名」が開催されました。「めだかの学校」からは菅原欽一メダカ、村松達雄メダカ、溝口久メダカらが参加。「第101回めだかの学校だより」には、掲載出来なかつたので、次回で報告したいと思えます。お楽しみに！。

なお、第17回全国まちづくり交流会は、来年福島県飯館村で開催予定です。

### ■第36回地域づくり団体全国研修交流会福島大会～未来を拓く地域づくり～

第36回地域づくり団体全国研修交流会福島大会「ふくしまからはじめよう。～未来を拓く地域づくり～」が、平成30年11月16日(金)～18日(日)の3日間、福島県双葉郡楢葉町のJヴィレッジ内を主会場に開催される。全体交流会は、16日18:00～20:00、全体会は17日9:30～12:00。分科会は17日午後から福島県内の、福島市、二本松市、郡山市、三春町、鮫川村、

三島町、昭和村、南会津町、南相馬市、楢葉町、いわき市の11市町村が会場です。申し込み期間は、7月2日～8月31日まで、興味のある方は、めだかの学校事務局榊原までご連絡ください。

### ■遠州の小京都 森町『森ほたる』

町並みを行灯でもとす、森の夏の風物詩『森ほたる』が、8月5日から15日の夕暮れから夜9時頃まで行われる。人と人と町、町と人、新たな出会いの場。「見にイベント」も。問合せは、松下信義 090・3367・4643へ。

### ■農村の文化と歴史を巡る遠州大念仏『蟬しぐれの盆』

遠州大念仏「蟬しぐれの盆」が8月14日(火)午後5時半から、磐田市敷地の豊岡東交流センター駐車場で行われます。遠州大念仏は、三方ヶ原合戦における徳川・武田両軍の戦死者を弔うための念仏踊りに由来している。静岡県西部地区を中心に、約70組が遠州大念仏保存会に所属している。今回は敷南子供念仏、敷上子供念仏の子供念仏と、大念仏の加茂組(旧豊田町加茂)、寺島組(浜松市浜北区)、大平組(磐田市大平)が出演。

榊原幸雄メダカが実行委員、鈴木亜繪美メダカが司会として参加しています。協力は500円。問合せは、豊岡東交流センター(0539・62・6669)へ。

### ■第20回遠州横須賀街道・ちっちゃな文化展

10月26日(金)～28日(日)、城下町遠州横須賀のまちなみを舞台に、第20回遠州横須賀街道・ちっちゃな文化展が開催されます。今年も風情ある民家・商家や、空き家や空き地など約70ヶ所の会場に100

名近い作家さんが集合、まちなみと美の晴れ舞台を演出します。ジャンルも多種多様、インスタレーション、陶芸、版画、写真、絵画、ガラス、染織などなど、ほとんど作家さんが期間中は在廊しているので、直接コミュニケーションがとれるのも、ちっちゃな文化展の大きな楽しみです。マクラメインスタレーションの鈴木真弓メダカ、書の大橋藍舟メダカは今年も出展してくれそうです。また当日は近郷近在からメダカ生がうようよ、町なかできっと見たことのある人に出会えますよ(笑)初日26日(金)は午後1時から、27日(土)は午前9時から夜間展示が午後9時まで。28日(日)は午前9時から午後5時までとなります。いつもとは違う、遠州横須賀のちよつとユソユキのDNAを感じる晴れの3日間、芸術の秋の日の一日をお楽しみください！

(鈴木武史メダカ)

### 『人・ひと・ヒト…だより』

●静岡市清水区の花井孝メダカ。森町での記念大会の盛会お疲れ様でした。めだかの学校は全国的に見ても面白く珍しい組織と申しますか仕組みで、それぞれの自己実現による生涯学習の実践です。ここまで続いて来た事は榊原さんのキャラクターと申しますか、フアージーでゆるい方針とあの「犬サブレ」によく似たいい加減さに秘密があるのでは…。と分析しています。出席しためだかの生徒全員の共通点であることを一泊二日の小国神社学校で再認識をいたしました、だって。お手紙はだいが省略しましたが、嬉しいですね。

●北海道オホーツク寒気団船木耕二さんから大同窓会前日に、大ホタテ貝180個が届く。翌日には「ご本人も会場に。この大ホタテ、パーベキューで大活躍。パー

ベキューで付き物の肉。『エッ ないの?』手違いで買い忘れた、だって。慌ててウインナー買って来た、けど。いや〜めだかし。

●九州は熊本玉名市の吉田富明さん。赤や黄色や緑色などのミニトマトとっさりどけてくれました。ご本人は別の便で会場入り。まあ、こちらも美味しいこと。ホタテとトマトとお弁当でお腹の中も大交流会だったりにして。ハイ。

●遠州は森町の甘々娘。三時間半の授業に途中登場。一人2分、一グループ20分。AからJまで7グループ。う〜ん、そう、ムシヤムシヤ。そうだね、ムシヤムシヤ。いや〜、いい授業です。

●浜松市の加茂光廣元メダカ。久しぶりでの草笛での校歌斉唱。授業が始まるのに見えない。「しよががない、村木謙弐メダカのハーモニカ伴奏でいこう」と、と、と『奇跡だ』と飛び込んで来た。いや〜良かった、良かった。たしか15周年の時もそうだったような。『奇跡は二度起こる』ナ〜ンチャツテ。

●千葉県松戸市の滝川徹元メダカ。浜松を離れて20年余。毎日新聞浜松支局長時代の二年半は至福の時だった。いまだに帰りたい魅力の地域。毎日新聞定年後の今は、環境ジャーナリストとして活躍。浜名湖も天竜川も都田川も太田川も待っている。こりや、再入学だね。メダカもまっつてま〜す。

●福岡県築上町の信田淳元メダカ。なんと33回めだかの学校給食係。福岡の四人を代表して給食づくり。大同窓会には九州から出席。25歳の時、突然若年性糖尿病と言われ、生きる希望をなくした時、糖尿病専門誌に記載されていた言葉に人生を大きく変えられた、と。糖尿病とつきあって40年。いまだ現役だ。また給食当番で来て、社会科「糖尿病とめだかの学校

の給食」信田淳先生（福岡県築上町）いいなア、と思ったりして。

●所沢市の木村智子メダカ。大同窓会で久しぶりすぎたらしく、おじさん方に「おぼさんになった。誰か分らんかった」と口々に言われて悲しかったです、だって。ホント失礼しちゃうね。お孫さん元気?。うれしそうに写真を送ってくるところを見ると、まアガーニングコーデイナーの頑張るおぼあちゃんだね。

●磐田市の福井紀男メダカ。大同窓会で窓際の少女など絵画数種類を写真（はがきサイズ）にしたものを出席者に配る。絵を描くことでガンを羨める気持ちを、前に向かせているんだって。

●浜松市の藤波公子メダカ。大同窓会に出席するつもりが、入院で出来ず。記念誌の購入の申し込みと一緒に過分な寄付をしてくれました。

●豊橋市の森田泰子元メダカ。静岡市の原崎小百合元メダカ、東栄町の森下幸子元メダカ、横浜市の山根圭二メダカからも寄付や記念切手をいただきました。みなさんにはお礼に「記念誌」を送らせていただきました。ありがとうございます。

●焼津市の静代さん。言い出しつべの平ちゃんこと故平山豊メダカの奥様。本日はめだかの学校の記念誌をお送りくださりありがとうございます。さっそく亡き夫の仏前にお供えし、報告いたしました。26年間続けていらっしやる事に頭が下がります。めだかの学校のますますのご発展をお祈り申し上げます。

●富士市中之郷の柚木恵美子元メダカ。めだかの学校のホームページを拝見。思っておこせば夢織工房の故天野恵美子さんに誘われ、引佐の「つみくさ」を訪れたのは二十余年にもなるんですね。大勢のめだか生に触発され、「富士川ツ子の会」を立ち上

げ、子どもたちと一緒に活動し、多くの学びと出会いを享受しました。今は富士市の社会教育委員長として、この3月に提言書を取りまとめ提出。と。9月7日には活動中の仲間と『遠州の寺めぐり』で森町へ出かける、だって。どこかでバッタリ会ったりにして。いいですねえ。

●浜松市天竜区水窪町の新井邦子メダカ。磐田市から故郷の水窪町に転居。『脱限界集落』実践塾みさくぼを立ち上げる。県西部地域の人たちで構成する。「120学会」の理事。「120学会水窪支部」を地元の仲間たち十数人でこのほど設立した。『水窪は熱くて明るいぜヨ』と。

●浜松市の石野裕子メダカ。磐田市敷地の豊岡東交流センターで、9月22日(土)13時30分から開催される「うたこえ交流センターまつり」に地元合唱団コールフォルテとコラボで出演する。豊岡中学吹奏楽部、サキソフオングループ、トライアングルも加わる。ぜひ聴きにきて!だって。

●愛知県東栄町の伊藤静男メダカ。7月8日に磐田市の竜洋なぎの木会館で行われた和太鼓集団『志多ら』の公演はいいがでしたか。当日、ロビーで皆さんを迎える予定でしたが、体調を崩して入院。今度会ったとき教えてね。だって。8月初旬手術予定、と。

●浜松市の古橋利雄メダカ。浜名湖で自然漁法による魚の養殖をやっている、と。エサやりは糸の先につけて。どう、あなたもやってみたら、おもしろいよ、だって。この酷暑いいねえ。

●浜松市引佐町の石野メダカ。清流久留女木川での「アユの友釣り」体験講座を開催する。7月28日(土)川合洲公園を中心に!募集人数は10人。4年目を迎えるが、例年好評で多くの体験者が訪れる。もちろん一流のインストラクターが1対1で一

から指導してくれる。釣果は2時間で多い人は十匹をあげる。女性も中学生も参加している。終了後は塩焼きをいただきながら友釣りの魅力を学ぶ。友釣りは技術が伴い、指導してくれる人が多くないことと装備にお金がかかることなどから釣り人が減少している。伝統文化を残さなくてはと漁協仲間の協力を得て開催している。清流をバックに一度は体験したい「友釣り」、久留女木川でまっつてますよ。と。

#### 《新入生紹介》

●浜松市の埋田千聡メダカ。日本童謡協会会員の作詞家で、一つの曲を使って、地域の色々のものを取り入れて作詩し、それを歌にする。そんな取り組みをしている、と。本島慎一郎メダカ推薦。

××× ×××  
今回は紙面の都合でこれまで。鈴木偉元メダカの《めだか春秋》は紙面の都合で次回にまわさせて頂きました。

#### ■めだかの学校のHP観ましたか?

建学25周年・開校100回を記念して、HPを開設しました。現在は、100回記念の募集要項や、開校前後の写真などが紹介されています。これから随時、「めだかの学校便り」や、メダカ生が関わっているイベントなどの情報を発信していく予定です。こんな情報を発信して欲しい!という方は、めだかの学校事務局080・1612・9130か、村田徳治080・1560・5916 [mail@kodawari.jp]までご連絡ください。

※おもしろ立「めだかの学校」のホームページ・アドレスは、  
<http://medakanogakou.org>  
です。観てね!

# トピックス

## ■めだかの学校開校100回記念の記念誌、残り7冊のみ!

いや〜凄い!「めだかの学校便り」第1号から100号まで。A4版、460頁、厚さ2.5cm、重さ1250g。まさに「めだかの学校」25年の歴史が詰まった記念誌。「地域づくり 人づくり 自分づくり」限定120冊。購入を希望された人にはお渡し済み。申込み忘れの生徒もいるのではないかと、と7冊のみ残しておきました。

## ■事務局だより

猛暑が続きます。如何お過ごしでしょうか。7月初めには西日本を中心に集中豪雨による大きな被害が出ました。被害を受けた方々には一日でも早い復興を願わずにはいられません。

おもしろ人立「めだかの学校」建学25年、開校100回。

めだかの学校は平成5年9月3日、現在建物もありませんが、浜松市引佐町奥山の「いなさ自然休養村 つみくさ」を学舎に、開校しました。今年の6月1日で丸25年、開校100回となりました。開校100回を記念して、30年6月2日(土)・3日(日)の2日間、遠州は森町の小国神社大宝殿を学舎にお借りして、「開校100回記念大回窓会」と銘打って開催しました。三時間半にわたる授業、大交流会の給食の時間。なんら基本的なところは変わらないのは、『さすが!めだかの学校』と言われる所以でしょうか。

6月2日(土) 12時45分に小国神社本

殿前に集合して、13時より小国神社本殿にて参拝。大宝殿では受付開始。北海道から九州までの現役生、OB、応援団など懐かしい人達がぞくぞく集まって来ました。14時から、一人2分、一グループ10人で20分、A班からJ班七グループの授業。

先ずは山中幸子メダカ力の進行で開会宣言。校歌斉唱、あれ?伴奏の加茂光廣さんがない。その時「間に合った。『奇跡だ』」と、とび込んで来て、無事に7年ぶりの草笛伴奏の校歌斉唱が終わる。そして『建学の精神(こころ)』の唱和、実行委員長のあいさつ、事務局からのお知らせと。めだかの学校の初めの頃を知らない生徒も多いので、水島加寿代メダカが紙芝居「めだかの学校誕生ものがたり」で分かり易く説明。

いよいよ3時間半の授業の始まりである。ひとりひとりの授業内容は、紙面の都合で書けないので、カラーの「別刷り」めだかの学校便り「特別号」で雰囲気を感じとっていただければ幸いです。

それにしても3時間半。中には時間をオーバーし鐘を鳴らされても堂々としてしゃべり続ける人も。とはいえ一時限一班20分の時間はしっかり守り、途中「甘々娘」も出て、いやアいい授業でした。さすが「めだか生」でござれば…。ハイ。

お待ち兼ねの大交流会は18時から。特別注文のお弁当も届いて。司会、進行は鈴木武史メダカとふたりの加藤メダカ。オープニングは3人の若者による「志多ら太鼓」の演奏。空いているお腹も共鳴!?。つづいて「第13回全国まちづくりin熊本玉名」から、吉田富明さんが参加の呼びかけをする。いよいよ給食の時間、加藤



真知子メダカの『いただきま〜す!』ではじまりはじまり!。2分の授業でしゃべり足りなかった「めだか生」。お弁当と大ホタテとミニトマトと、パーベキューで焼かれたお料理の数々。あちらこちらで「なつかしい!」「どちらさまで」「エツ、うそ〜」。口もお腹も大交流でございます。「犬サブリ音頭」がとび出したり、交流会大締めはマジシャン世田新造の『マジックの世界』。21時みんなで片付けして大交流会も終了。帰る人と、夜ナベ談義する人と…。大広間には布団も敷かれ、女性は2階に、おやすみなさい…。語り足らず日をまたぐ人も。

6月3日は朝6時起床。6時半、朝食前に小国神社のトイレの掃除。榎原淑友先生の指導のもと『便教会』。心も爽やかに8時からの朝食、ご飯もみそ汁も格別に美味しい。余ったご飯はおむすびにして『森の町めぐり』の相伴に。村松達雄メダカの案内で、トウモロコシ販売所、萩寺、天宮神社、半夏生の群生地などをマイクロバスで巡る。残った人たちは大宝殿の片づけと。12時30分大宝殿に戻って解散式。お疲れさまでした。参加者の皆さんの笑顔。良かったア、楽しかったアの言葉に心満たされる2日間でした。感謝!

さて、第26期、第101回の職員会議を6月29日(金) 19時から学舎で開く。草地球壇校長と職員16人で開く。第101回は平成30年9月7日。26期の最初であるので、26期の通年テーマと、今回のテーマを話し合う。授業の方は、240キロの沙漠を走った川島安一メダカの話を知りたい、とのことで決まっている。内容も「古希爺 沙漠を走る」。色々意見が出たが、論議の「70にして…」の一部を引用して『心に欲するところに従って矩(のり)を踰(こ)えず、う〜ん難しい』に。通年テーマは少し遊んで『今を感じつつ、

新たな年は「ハヤブサ号」のように…。今という現実を見据えつつ、夢と希望をのせて…。ハイ。

## ■第26期の受付をしています!

第26期は平成30年9月1日から31年8月31日までです。毎年度入校手続きが必要ですが。未提出の生徒には再度申込書を同封します。8月31日までに申込書に1000円を添えて提出してください。手続きがなされない生徒は名簿からはずれ自主退学となります。ご注意ください。新しく入校を希望される方がいましたら事務局までご連絡下さい。申込書と資料をお送りします。

## ■今回も「めだかの学校だより」遅れてごめんなさい。

いつもお手伝いいただいています鈴木武史メダカ、石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、本島慎一郎メダカ、田村進治メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榎原明美さんありがとうございます!。

## ■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、30年11月1日予定。締切りは、10月15日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、情報を手紙かFAXで待っています。メールの方は、

《mabuchi-trd@vr.tnc.ne.jp》  
間瀬亮太090・5009・0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので「報せ」)

## ■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榎原幸雄方 TEL 05  
39・62・6691 (FAX同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一  
宮3150。電話 0538・89・77  
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯 080・1612・9130

